

2014年度に入って初めてのレター発行となります。昨年度は支部会員各位のご協力により、無事支部の例会を盛会のもとに終えることができましたことに感謝申し上げます。本号では、3月29日に開催されました第37回支部研究発表会、および支部総会の内容についての報告をいたします。

日本比較文化学会関東支部事務局長 郭 潔蓉

### ◆第37回 関東支部研究例会・2013年度支部会総会 ご報告◆

2014年3月29日(土)、創価大学中央教育棟西棟AW511教室において第37回関東支部例会が開催されました。当日は、5名の会員による研究発表が行われ、活発な質疑応答がなされ、極めて実りある例会となりました。終了後、2013年度総会が執り行われ、関東支部の活動報告および会計報告がなされました。その後、八王子駅近くで懇親会を行い、当日の発表に関する活発な意見交換が行われたと同時に親睦を深めました。

以下、例会での研究発表の要旨および総会のご報告を致します。

#### ◆開会の挨拶： 関東支部長 近藤俊明（東京未来大学）

##### \* 発表要旨：発表順に \*

#### 1. 岡倉天心の文化観—T・S・エリオットのヨーロッパ文化観との比較を中心に—

早稲田大学国際言語文化研究所客員主任研究員  
小林 亜紀子

岡倉天心(本名・覚三)は、日本では「アジアは一つ」が広く知られている。このことばは、大東亜共栄圏の理念的支柱として利用された経緯もあり、岡倉には「危険な思想家」、「国粋主義者」などのイメージが常につきまってきた。研究の世界においても、岡倉の「思想」を研究対象とすることがタブー視される時期が長く続き、美術分野では「近代日本美術の父」などの評価がなされても、その思想が正面から取り上げられるようになったのはようやく近年になってからといってよい。

T・S・エリオットも、文学の分野では評価が高い一方、彼の文化論は様々な事情からこれまでほとんど日本には紹介されてこなかった。本発表では新たな試みとして、これまでどちらもあまり取り上げられてこなかった岡倉とエリオットの文化観の比較を試みた。文化を論じる上で二人が念頭においた地域はアジアとヨーロッパで異なっているが、複数文化の共存・共生という問題に向き合っていた点で、二人の文化観には共通点がある。グローバル化の時代に我々が日々直面する異質な文化との共生というテーマについて考える上でも、二人の文化観から得る示唆は小さくない。

#### 2. 劉呐鷗『都市風景線』とモダンアート

東京工業大学大学院博士後期課程  
杜翔南

日本で文学的素養を身につけた中国新感覚派作家劉呐鷗(1905—1940)は、1930年、短編小説集『都市風景線』を上海で上梓した。これらの作品は、無感情でありながら男性を瞠目させるような性的大胆さを持つモダンガールなど風俗描写に満ちあふれており、一見すると軽佻浮薄以外何ものでもなく、低俗な大衆迎合としばしば酷

評されている。

一方、「未来派、立体派、表現派、ダダイズム、象徴派、構成派、如実派のある一部、これらは総て自分は新感覚派に属するものとして認めている」と、横光利一は主に美術領域で起きたアヴァンギャルド芸術運動と新感覚派文学との親縁関係を明言している。劉呐鷗のモダン都市小説も、日本新感覚派のみならず、未来派をはじめポール・ゴーガン、アンドレ・ドラクワ、ジョージ・グロス、シュプレマティスム、構成派など反俗精神に貫かれるモダンアートに影響を受けていることは見逃せない事実である。本研究では、当時の劉呐鷗が目にした可能性がある書物を提示しつつ、モダンガールの表象を中心にその影響関係を考察し、彼の前衛志向を明らかにする。そのモダンガールの表象をめぐる、先行研究では、「女性が徹底的に物質化された」、「その描写は、女性の身体美、外形美に留まり、心理と精神面には及ばない皮相なもの」などと批判的な意見が多いが、本研究ではフェミニズム的な議論を一先ず置いておいて、作者の魂胆はまさにこの物質主義にあるではないかと指摘したい。抽象化・非絵画化を特徴とする 20 世紀初頭のモダンアートの根底には、表象形式・表象媒体を意識から独立する物質とみなす物質主義があり、横光利一も「文字は物体である」と物質主義の言説を以って文学における形式主義を展開させるなど、表象革命としてのアヴァンギャルド芸術は言わば「物質の反乱」である。物質的モダンガールの表象をシニフィアンや表象形式の象徴とし、劉呐鷗のモダン都市小説を再読したい。

### 3. 韓流ドラマに見る女性像 —「キャンディ型ヒロイン」を手がかりとして—

宇都宮大学非常勤講師  
崔寶允

日本の「トレンディドラマ」の影響を受け形成された韓流ドラマは、若者の恋愛を描きながら儒教思想に基づいた家族愛も一緒に描いていくのが特徴である。また、韓流ドラマには「キャンディ型ヒロイン」と呼ばれる女性主人公が多い。ここでいう「キャンディ」とは日本の少女マンガ『キャンディ・キャンディ』の主人公、「キャンディス・ホワイト・アードレー」のことである。

アメリカの孤児院、ポニーの丘で育ったそばかす顔のおてんば少女キャンディが、度重なるいじめや逆境にもめげず、異なる魅力を持つ 3 人の男性たちと出会い、恋愛と人間関係の喪失を経験する。やがて自立し看護師となったキャンディが、最後には初恋の人と再会を果たし幸せを掴むというのが『キャンディ・キャンディ』のストーリーである。

1990 年代末から急激に増えた「キャンディ型ヒロイン」を一概に定義するのは難しいが、「悲しくてもさびしくても私は泣かない」で始まる韓国版『キャンディ・キャンディ』の主題歌がキャンディの性格を極大に表していると筆者は考える。一般的に韓国で言われている「キャンディ型ヒロイン」とは、「どんな苦難にもめげず明るくポジティブに乗り越えていく女性主人公」のことである。

代表的な「キャンディ型ヒロイン」には『星に願いを』(1997)のヨニ、『グッキ』(1999)のグッキ、『チャングムの誓い』(2003)のチャングム、『パリの恋人』(2004)のテヨン、『がんばれ！グムスン』(2005)のグムスン、『君は僕の運命』(2008)のセビョク、『華麗なる遺産』(2009)のウンソン、『シークレットガーデン』(2010)のライム、『愛しのソヨン』(2012)のソヨン、『相続者たち』(2013)のウンサンなど、枚挙にいとまがない。

ちなみにドラマ『冬のソナタ』の脚本家キム・ウニ氏、ユン・ウンギョン氏が、ドラマ作りの参考にしたと答えたのが日本の少女マンガ『キャンディ・キャンディ』であるという。

本発表では、日本の少女マンガから誕生し韓流ドラマに欠かせない存在となった「キャンディ型ヒロイン」が時代の流れとともにどのように進化してきたのかを分析していく。それに関連して韓国社会における女性の地位向上や社会参与など、その背景について考察する。

### 4. イギリス文化研究の回顧と展望 —イギリス史と英文学を中心に—

日本女子大学  
佐藤和哉

日本におけるイギリス文化研究は、イギリスの政治・歴史・文学・思想・経済などの各分野に関する論考をそれぞれの分野の研究者が分担執筆して集めた著作として当初発表された。この形は、幅広い分野にわたって知識

を得ることができるという長所がある一方で、統一的な「イギリス像」を結ぶことが読者に任されるという短所があった。その後、例えば、ヴィクトリア朝を研究する文学研究者と歴史研究者が中心になって論文集を編むなどの研究も出されたが、これも文学研究と歴史研究が十分な対話をしているか、という点では疑問が残る。

そこで着目されるのが歴史研究と文学研究の有機的な結合である。歴史叙述に叙述の主体性が関わり、文学研究が文学的テキストのみを扱うのではないことはすでに明らかとなっているうえに、ある時代における表象の歴史を考える際には、歴史研究は文学的テキストを資料とすることができる。最近では、言語論的転回以降のイギリス史研究と英文学研究の相互作用についての論文集も発表されており、イギリス文化研究においては、歴史研究と文学研究との発展的な融合が目指されている。

## 5. 中学校外国語科の必修の理由を考える - 『学習指導要領解説書』の通時的分析を通して -

南九州短期大学  
水島孝司

世間一般にはあまり知られていないのだが、わが国の中学校教育課程において外国語が初めて必修となったのは、1998年告示、2002年度実施の学習指導要領においてである。1947年度の「六三制」発足以来、中学校の外国語は50年以上にわたって選択教科の扱いであった。

中学校で戦後初めて外国語が必修になった理由は、「国際化の進展に対応し、外国語を使って日常的な会話や簡単な情報の交換ができるような基礎的・実践的なコミュニケーション能力を身に付けることがどの生徒にも必要になってきている」(文部省1999)からであった。こうした「国際化への対応」という実利的な理由だけで、外国語科の必修を決めてもよいのだろうか。

本発表では、1958年以降これまでに発行された6冊の『学習指導要領解説書』に見られる外国語科の位置づけに関する説明を通時的に分析し、何を理由にして中学校の外国語を必修とすべきかを考えた。発表者は必修となるべき理由は、外国語学習が教育全体の目的である人格形成に強く関与するからだと述べた。そして、選択か必修かの位置づけを検討する際に考慮すべき点として①国民教育としての完成教育が果たすべき役割、②学校教育本来の性格、の2つを挙げ、それぞれから必修の理由を導き出すことを試みた。

### ◆閉会の挨拶： 関東支部事務局長 鈴木宣行(創価大学)

\* 閉会后、支部総会を開催。

.....

### \* 支部総会報告 \*

### ◆開会の挨拶： 関東支部長 近藤俊明 (東京未来大学)

1. 2013年度関東支部年報並びに決算報告 事務局長 鈴木宣行(創価大学)
2. 事務局長交替の件 関東支部長 近藤俊明(東京未来大学)
3. 新事務局長挨拶並びに2014年度活動計画等 新事務局長 郭 蓉潔(東京未来大学)
  - ・2014年6月14日に全国大会を執り行う。
  - ・2014年度の支部会は3回を予定。
  - ・2014年度の関東・東北支部例会は9月に高崎市・高崎経済大学での開催を予定。
  - ・2014年度の関東・関西支部例会は12月6日(土)を予定。本年は、関東での開催となる。
  - ・総会を含む2014年度の例会は、2015年3月に開催をする予定。
4. 2014年度 新支部役員
  - 支部長: 近藤俊明
  - 副支部長: 花澤聖子、高橋強、高山有紀
  - 支部指名理事: 齋藤知条
  - 支部推薦理事: 高橋強
  - 学会誌編集委員: 鈴木宣行

事務局長: 郭潔蓉  
会計監査: 三浦幸子  
セクシュアルハラスメント委員: 三井真紀、水島孝司

◆閉会の挨拶: 議長 花澤聖子(神田外語大学)

\* 閉会后、懇親会を開催した。

.....  
**\* 重要事項 \***

● 2014 年度の関東支部会費のご納付について

会員の皆さま方へ郵送にて納付書をご送付申し上げます。

大変お手数ですが、納付書に記載されております関東支部の口座(以下、参照)へ 2014 年度会費の納入をお願い申し上げます。

- ・納付先金融機関名: ゆうちょ銀行
- ・口座記号: 00100-8
- ・口座番号: 109160
- ・加入者名: 日本比較文化学会関東支部

● 次回の「関東支部第 38 回例会」は東北支部との合同例会として、次の通り開催致します。

1. 開催日: 2014 年 9 月 13 日(土)

2. 場 所: 高崎経済大学

3. 発表希望締切: 2014 年 7 月 31 日(木)(厳守)(学会HP上に掲載し、会場場所などを広報するため)

但し、上記締切日は「発表者氏名、所属、発表題目のみで構いません。要旨は、8 月 31 日までに事務局にご送付願います。

発表予定会員はメールにて事務局(郭: [kaku-iy@tokyomirai.ac.jp](mailto:kaku-iy@tokyomirai.ac.jp))までご連絡ください。

● 「関東支部創設 30 周年記念論集」について

お陰さまで、関東支部は 2015 年 6 月に創設 30 周年目を迎える運びとなりました。支部では「創設 30 周年記念論集」の刊行を企画しております。論文集の刊行予定は 2016 年 1 月、論文原稿の締切は 2015 年 9 月末日を予定しております。応募要領等詳細につきましては、追って関東支部のホームページに掲載致しますので、ご承知置きのほどお願い申し上げます。